

キク栽培の計画的な作業実践と育苗技術の向上による 新規花き専業農家の経営安定

対象者 甲賀市甲南町 H.K 氏

【普及活動のねらい】

対象は令和4年3月に認定新規就農者として就農され、施設輪ギク（450㎡）と露地小ギク等（2,200㎡）の栽培を開始されました。輪ギクは令和4年度の目標単収25,200本を達成されたものの、盆と年末出荷の作型それぞれで秀品率が15%、32.4%と低く、規格外での出荷が多くなりました。原因は栽培経験が浅く作業適期を逃したこと、高温期の育苗管理に失敗し苗質が揃わなかったことが挙げられました。また、小ギクは作業が後回しとなったことと育苗管理での失敗により、目標単収の1割程度にとどまりました。これらの結果、令和4年度の販売金額は目標に届きませんでした。

就農2年目となる令和5年には施設を増棟し彼岸出荷の作型も加わるため、作型ごとの作業適期を逃さず安定した収量と品質を確保することが求められます。今後地域の花き生産のリーダーとなることも期待されることから、就農計画目標の達成と経営安定を目指し支援を行いました。

【普及活動の内容】

作型に合わせた作業時期のイメージを持ってもらうため、作業計画の作成を提案し、ほ場巡回と併せてスケジュールの提示や先輩専業農家との相談機会を設け、計画的な作業の実践に向けた働きかけを行いました。また、輪ギクでは直挿し後の遮光・灌水管理について、小ギクでは日射環境を考慮した育苗環境の見直しと灌水調節について指導し、対象に改善効果を実感してもらうことで育苗管理技術の向上と定着を図りました。



輪ギクの作業をする対象

【普及活動の成果】

輪ギクは、計画を意識して適期実施が重要な直挿し、消灯、Bナイン処理等の作業を進めた結果、盆出荷の作型で目標収量の9割を達成、秀品率も15%から76%へ大幅に向上しました。育苗管理では、盆の作型の反省点を彼岸と年末の作型で改善したことで苗の活着率が向上し、対象自身もその効果を実感されました。また、小ギクの育苗管理については日射環境の大切さを理解され、灌水管理も自ら調節できるようになりました。計画的な作業の実践についてはまだ改善すべき点もあることから、今年の反省点を対象と振り返り来年度の改善につなげていけるよう支援していきます。

◎対象者の意見

植物の状態を見て日射量が足りているか見極められるようになった。直挿しでは灌水管理の重要性が分かり、直挿し後の活着率が良くなったのを実感している。(H.K 氏)